



岡山消費者動向分析

意識調査から読み解くビジネスのヒント

Vol.57
自動車の未来について

自動車

近代経済学は1776年に上梓されたアダム・スミスの『国富論』に遡ると言われる。経営学の始まりをどのように捉えるかはいろいろと意見の分かれるところである。アンリー・ファヨールの『産業ならびに一般の管理』は1916年に発表された。管理会計の基礎のROEやROAなどの指標を生み出したペンシルベニア大学ウォートンは1881年に設立されている。

多くの経営学の関係者は経営学の始まりはハーバード大学にMBAが創設された1908年前後と考えている。この年は究極の垂直統合モデルを完成させたT型フォードが発売された年でもある。車は以来人々に移動の自由を提供し人々の生活に大きな影響を与えている。同時に車という20世紀の画期的イノベーションにより多くの方が事故で亡くなった。同時にガレブレイスが指摘したように環境問題についても多大なる負の遺産を残している。

政府は「2050年のゼロエミッション達成」を宣言した。大きな変化が生まれそうである。今回は「自動車の未来」についての意識調査である。

所有する自動車の使用年数と買い替えの予定

所有する自動車で、主に使用している自動車の使用年数は、「1年未満」岡山10.5%、全国14.5%、「2年」岡山11.0%、全国17.1%と、2年未満の新しい車の所有率は全国の方が高い。一方「5年」は岡山11.6%、全国9.2%、「8年」は岡山7.4%、全国3.7%、「10年」は岡山6.9%、

全国4.1%など、使用年数が長くなると、岡山の方の割合が増える。岡山の方が車を長く使用している割合が多い。

「10年以内に自動車を買替える」予定は岡山52.6%、全国62.3%で、約10割岡山の方が全国に比べて低くなっている。また、所有する自動車のタイプは、「ガソリン車」が最も多く、岡山77.4%、全国64.3%、次いで「ハイブリッド車」は岡山19.7%、全国27.4%。「ハイブリッド車」の所有割合も全国の方が約8割高くなっている。

次はハイブリッド車？

次に買い替える自動車の種類は、「ハイブリッド車」が最も多く、岡山42.6%、全国37.9%、次いで「ガソリン車」岡山38.5%、全国26.9%。「電気自動車」は、岡山12.5%、全国14.5%で、電気自動車への切り替えは全国の方が高いが、それでも1割強に留まる。

2030年までに新車販売からガソリン車をなくすことについて、「必ず達成できる」は岡山4.4%、全国8.8%、「期限までには無理だが近いうちに達成できる」は、岡山13.3%、全国18.9%と、全国的にまだ切り替えの意識は低い。

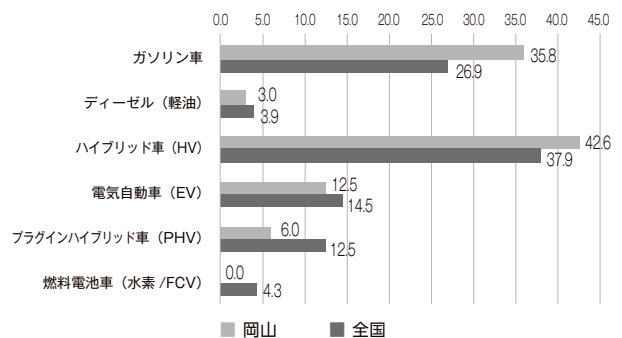
一方、「達成はできない」(「達成は難しいと思う」+「達成はできない」)と考えているのは、岡山50.2%、全国は40.0%で岡山の意識の方が10%も低い。

調査対象：岡山504件、全国5,279件
調査方法：インターネット調査
調査期間：岡山 2021.6.16~6.25、
全国 2020.12.28~2021.1.27
調査機関：岡山情報文化研究所、
一般社団法人日本自動車連盟

10年後主流になっていると考える自動車のタイプで、最も多いのは、「ハイブリッド車」で、岡山40.5%、全国39.4%、次いで「電気自動車」岡山31.3%、全国25.8%。「プラグインハイブリッド車」は、岡山10.7%に対して全国19.3%。「ハイブリッド車」と「電気自動車」が今後の主流になると考えられている。

普段の生活で、環境やエコへの配慮を行っている割合は、岡山77.4%、全国88.5%で、岡山に比べて全国の方が、約1割、意識が高い結果となっている。岡山を国内の「ゼロエミッション」先進地域にするためにはかなりの意識改革をしなければならない。

次に買い替える自動車の種類
(10年以内に自動車を買替える予定がある方)



※岡山の生活者をモニターとした岡山情報文化研究所独自のインターネット調査パネル「ビンサイト」を活用 (URL <http://vinsight.jp/>)